

I 事業の状況

1 総括

当研究所は、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的とし、設立以来半世紀以上にわたって、文部科学省の管下で研究助成等の事業を進めてきました。11年前の平成24年からは公益財団法人に認定されて内閣府の所管となり、学校などへの研究助成、研究成果の刊行、野外教育活動の推進に加えて、医学・医療eラーニングや世界点字作文コンクールなどへ公益事業を拡大してまいりました。

本年度は、数波にわたる新型コロナウイルス感染症流行禍の影響を受けつつも、次の事業を行いました。

◎ 小・中学校や研究団体等への研究助成では、小学校1校、5研究団体、1学会に助成を行いました。

研究内容のテーマを挙げると、「自分に向き合い自分を高め、郷土に誇りを持つ子供の教育」「GIGA スクール日常使いから新たなチャレンジへ」「図書館での英語活動プログラム～教育格差対策としての子ども英語図書館の可能性を探る～」「理論と実践の往還をめざした算数教育」「個別最適な学びを実現する指導法の開発」「家庭教育に関する理論的・実践的研究」など生徒の学びの向上を高めるものを中心に多様でした。

◎ 研究成果は「教育研究情報」誌に掲載して発行、当研究所のホームページにもアップして、成果の普及を図りました。

◎ 野外教育では、自然体験活動の指導者を対象に、教材（アイオレシート）を使い実技指導中心の講習会を開催していましたが、今年度は諸般の事情により一時中止といたしました。

尚、「野外教育情報」ニュースレター第15号を発行し、「教育研究情報」と同様に、当研究所のホームページにアップいたしました。

◎ 医学・医療分野では、eラーニングを推進するMEDI@（メディアット）システムのもと、セミナー等の講演・講義の収録・配信、eラーニング利用への支援（日本外科学会、日本東洋医学会）、資格認定のためのeラーニング利用（日本リハビリテーション医学会）、専門医養成のための支援（日本専門医機構、日本泌尿器科学会）などを行いました。

◎ 視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の今年度の支援は諸般の事情により中止いたしました。

今後とも公益事業の着実な展開を図り、実りある成果を挙げていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

2 助成等事業概要

A. 研究実践校への助成

時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざして地道に意欲的な研究に取り組む学校を選んで、支援のための研究助成を行う。

○総合学習 教育（岡山県）津山市立西小学校（尾崎文雄 校長）

〒708-0006 岡山県津山市小田中1360

研究主題 「自分に向き合い自分を高め、郷土に誇りを持つ子供の教育」

～非認知能力の向上と城西郷土学習の実践を通じて～

*点数で表すことのできない非認知能力を向上させることで「自分に向き合い・自分を高める」力を養うとともに、本校の学区である城西地区を探究することで郷土愛を育成することができた。またそのための表現力・思考力を養えた。

計 200,000 円

B. 教育現場への助成

学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会等に対して、支援のため助成を行う。研究テーマは、教科領域のほか、特別活動、道徳教育、情報教育、障害者教育、家庭教育、国際理解教育、環境教育等の分野としている。

○ GIGA スクール 横浜メディア教育研究会

（代表者：後藤大二郎／佐賀大学大学院学校教育研究科）

〒840-0042 佐賀県佐賀市本庄町1番地

（事務担当：鈴木輝美／横浜市立深谷小学校）

〒244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 1724-2-80331

GIGA スクール 日常使いから新たなチャレンジへ

*今年度は GIGA スクール2年目として、一人1台端末を足場としながら、さらに授業研究を充実させるために、ワークショップ、実践提案等を行った。ワークショップは4月にオンライン

協働作業によるグループ学習、8月に PBL による教科横断的単元デザインについて行った。7, 11月には、各地、各校種の実践提案をお願いした。オンラインのよさを活かして各地の先生方の実践を交流することができた。1月コラボ研では、各団体共催で行い実践提案、模擬事業等を行った。

○英語教育 カレイラ松崎順子 英語教育研究会

(代表者:カレイラ松崎順子/東京経済大学 第三研究センター3208)

〒185-8502 国分寺市南町1丁目7-34

図書館での英語活動プログラム ~教育格差対策としての子ども英語図書館の可能性を探る~

*韓国政府は所得格差から生まれる英語力の格差をなくすため、英語図書館を創設し子どもに、図書を提供だけでなくキャンプや英語プログラムを無料または廉価で提供している。日本でも近年教育格差が問題になっているが、特に小学校に教科化された英語の教育格差は広がっている。本研究では英語図書館の設立の可能性を探るため、大学教員・小中学校教員・大学生が中心となって図書館での英語活動を定期的に行い、韓国のような英語プログラム、特に CLIL(内容言語統治型学習)をベースにしたプログラムの構築・実践・評価を実践した。具体的には図工の CLIL、体育の CLIL や飛行機を英語で作る活動を行った。

○算数教育 アウトプット算数研究会

(代表者:木村憲太郎/岸和田市立八木小学校教諭)

〒596-0812 大阪府岸和田市大町3丁目-22-1

理論と実践の往還をめざした算数教育

*大学教員が学校現場にきて、現職教員に理論を伝達したり、指導したりする機会は、そう多くはない。これでは、理論と実践の往還を行うことはできない。そこで、本研究会は、算数科を専門とする大学教員と研究・実践に熱心な小学校の現職教員が集まり、自分たちの成果を伝達(アウトプット)し、議論することで、学校現場で質の高い算数教育が展開できることをめざしている。今年度は主に算数教育を専門とする大学教員は算数教育に関する理論を、現職教員は自身の実践を伝達(アウトプット)し合い、議論を重ねた。

○算数教育 広島県中学校数学教育実践研修会

(代表者:天野秀樹/広島大学附属東雲中学校教諭)

〒734-0022 広島市南区東雲3丁目-1-33

個別最適な学びを実現する指導法の開発

*主体的・対話的で深い学びに連結するための授業の進め方を、当研修会を通して広島県内の中学校数学科現職教員で協働して作りあげ、実践力の向上をめざし、12月に年会、6

月・9月・11月に授業づくり研修会を開催した。

○家庭教育 日本家庭教育学会

(代表者:中田雅敏/八洲学園大学特任教授)

〒102-8561 千代田区紀尾井町4-5(一社)倫理研究所内

(事務責任者:巖錫仁/筑波大学人文社会系准教授)

〒305-8871 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学

家庭教育に関する理論的・実践的研究

*今年度はコロナ禍が鎮静化していくことを考慮しながら、夏の大会及び常任理事会、家庭教育師・アドバイザー等の活動を3年ぶりの対面形式に戻し、学会活動の充実を図った。第37回大会は貞静学園短期大学を会場とし、「家庭教育と健康—コロナ禍の経験から何を学び、どう活かしていくべきか」というテーマのもとで、午前の部の10本の研究発表及び午後の部の講演と質疑討議を行った。その他、家庭教育師資格認定(2回)、学術研究論文集『家庭教育研究』28号の刊行、会報の発行(109号、110号)をおこなった。また家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会を倫理研究所において対面形式で開催した。そしてこれらの会務の運営にかかわる常任理事・幹事会(4回)および総会を行った。

計 700,000 円

C. 野外教育活動について

野外教育(特に自然体験活動)の推進に向けて、指導者養成の講習会の実施、また、実践記録や情報等を集めて編集する機関誌「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行していましたが、本年度以降は諸般の事情によりしばらくは休止とします。

なお、今期は前期末より作成を始めた「野外教育情報」第15号を発行し当研究所のホームページにアップしました。その後は休刊となっています。

計 222,200 円

D. 研究報告誌の刊行

前年度に研究助成を行った研究実践校や地域研究団体・学会等の研究成果を掲載した「教育研究情報」誌を年1回発行し、教育研究資料としてホームページにアップし、成果の普及を図る。

○「教育研究情報」の刊行

令和5年2月に発行。前年度に研究助成を行った研究実践校、研究団体や学会等の研究の成果を掲載しホームページにアップする。現在は第54号まで発行している。

計 530,200 円

E. 世界点字作文コンクールへの支援

視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築くため、オンキヨー株式会社と毎日新聞社点字毎日とが平成15(2003)年に創設、その後世界規模(現在は世界4地域128か国)に発展した。

国内・海外両部門で優秀作品を選考・表彰し、入選作品は、点字と活字を併記した作品集として、全国の盲学校、点字図書館、公共図書館1,200個所に寄贈している。尚、今期は諸般の事情により休止しました。

F. 医学・医療教育及び教育技術への助成・研修支援

医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修(eラーニング)を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MEDI@(メディアット)システムの導入、コンテンツ等の制作と配信、当該システムを利用した研修プログラムの整備・運営等に対して助成や支援を行い、この分野でのeラーニングの普及・展開を行った。

○ 医療施設のeラーニング利用への支援

教育・研修等のインターネットでの利用を計画している岡山大学病院のeラーニングシステムの構築など、その利用推進を支援した。

○ 医学会の専門医単位更新のためのeラーニングへの支援

一般社団法人日本専門医機構や一般社団法人日本外科学会、一般社団法人日本泌尿器科学会、公益社団法人日本リハビリテーション医学会などの専門医資格更新の単位取得等を目的としたeラーニングシステムの構築や運用・管理、コンテンツの制作、配信サービスなどを支援した。

計 16,054,663円

以上

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

【 理 事 】

(令和5年3月31日現在)

	氏 名	区 分	就任年月日	現 職 等	備 考
理事長	大舘 直人	常 勤	令和4・6・15	オンキヨー(株) 名誉会長	平成22・12・9
理 事	赤羽 正己	非常勤	〃	(株)プロストホールディングス 代表取締役	〃 18・4・1
〃	大舘 宗徳	非常勤	〃	オンキヨー(株) 代表取締役社長	〃 22・12・9
〃	加藤 治文	非常勤	〃	東京医科大学 名誉教授	〃 30・5・31
〃	竹田 幸男	非常勤	〃	(株)文理 元専務取締役	〃 18・4・1
〃	椿 勲	非常勤	〃	椿勲公認会計士事務所 代表 常任理事	〃 22・12・9
〃	土井 浩信	非常勤	〃	淑徳大学 名誉教授	〃 12・4・1
〃	福岡 政行	非常勤	〃	白鷗大学 名誉教授	〃 28・4・1
〃	森 勇	常 勤	〃	(株)上総モナークカントリークラブ 前代表取締役 常任理事 事務局長	〃 24・5・28

(備考欄：初任年月日)

○令和4年5月31日開催の書面決議による評議員会（コロナ禍のため）において、任期満了に伴う重任9名について、理事選任の決議が行われた。7月1日付けで東京法務局での登記の手続きが完了した。

○令和4年6月15日開催の書面決議による理事会（コロナ禍のため）において、代表理事（理事長）の選定を行い、7月1日付けで登記の手続きが完了した。

【 監 事 】

(令和5年3月31日現在)

監 事	大平 健司	非常勤	令和4・6・15	大平健司公認会計士事務所代表	平成23・4・1
〃	近田 直裕	非常勤	〃	近田公認会計士事務所 代表	〃

(備考欄：初任年月日)

○令和4年5月31日開催の書面決議による評議員会（コロナ禍のため）において、任期満了に伴う重任2名について、監事選任の決議が行われた。7月1日付けで東京法務局での登記の手続きが完了した。

【 評 議 員 】

(令和5年3月31日現在)

	氏 名	区 分	就任年月日	現 職 等	備 考
評議員	大舘 時久	非常勤	令和2・6・24	オンキヨー(株) 元会長	平成22・12・9
〃	岡田 八郎	非常勤	〃	上総マーカーリーグ元代表取締役	〃 22・12・9
〃	佐藤 貢悦	非常勤	〃	環太平洋大学 教授	〃 12・4・1
〃	西村 正宏	非常勤	〃	(株) キバンホールディングス 代表取締役	〃 28・5・26
〃	畑 史郎	非常勤	〃	(株)文理 前代表取締役会長	〃 28・5・26
〃	北條 良彦	非常勤	〃	オンキヨー(株) 元特命担当	〃 23・4・1
〃	丸山 敏秋	非常勤	〃	一般社団法人倫理研究所理事長	〃 15・5・23

(備考欄：初任年月日)

○ 令和4年度は評議員の任期は継続中にて変更はありません。

2. 役員会に関する事項

(1) 理事会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
4年5月16日	<p>コロナ禍のため書面決議とし、理事長が決議事項の提案書を発し、理事全員が同意書、監事全員が異議がないことの確認書を提出。</p> <p>1) 令和3年度事業報告及び収支計算書類等の承認の件 2) 第14回(通算114回)定時評議員会招集の件 3) 理事・監事改選につき、候補者名簿を評議員会へ提案する件 4) この決議があった日を、5月16日とすること。</p>	<p>原案通り可決承認 〃 〃 〃</p>
4年6月15日	<p>コロナ禍のため書面決議とし、理事長が決議事項の提案書を発し、理事全員が同意書、監事全員が異議がないことの確認書を提出。</p> <p>1) 代表理事の選定：5月31日評議員会で選任された理事のうちから、大舘直人を代表理事に選定し、理事長とすること。 2) この決議があった日を、6月15日とすること。</p>	<p>原案通り可決承認 〃</p>
5年3月27日	<p>コロナ禍のため書面決議とし、理事長が決議事項の提案書を発し、理事全員が同意書、監事全員が異議がないことの確認書を提出。</p> <p>1) 令和5年度事業計画及び収支予算案、並びに資金調達及び設備投資の見込みの承認の件 2) この決議があった日を、3月27日とすること。</p>	<p>原案通り可決承認 〃</p>

(2) 評議員会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
4年5月31日	<p>コロナ禍のため書面決議とし、理事長大舘直人が決議事項の提案を行い、評議員全員から書面による同意の意思表示を得た。</p> <p>1) 令和3年度財務諸表（計算書類等）の承認の件 2) 任期満了に伴う理事の改選の件 3) 任期満了に伴う監事の改選の件 4) この決議があった日を、5月31日とすること。</p>	<p>原案通り可決承認 〃 〃 〃</p>

3. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄 付 者	申込金額	領収金額
助成等事業推進	大舘 直人	1,000,000	, 1,000,000
	合 計	1,000,000	1,000,000

令和4年度事業報告 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」
第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

令和5年4月28日

公益財団法人 日本教育科学研究所